



News Letter 2013 No.2

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第35号 発行 2013年11月26日

◇学会事務局: 杏林大学外国語学部 古本泰之、野口洋平
〒192-8508 八王子市宮下町476 杏林大学外国語学部
Tel 042-691-0011 (代表) Fax 042-691-8617 (共用)
email: jimujsthe.org ◇学会 URL: http://jsthe.org
◇編集・発行人: 野口洋平 (noguchi@kyorin-u.net)

【第13回全国大会のご案内(第1報)】

今年度は、「地域を支える観光ホスピタリティ人材育成とは ～九州の事例に学ぶ～」をテーマに、2014年2月28日(金)・3月1日(土)・2日(日)に全国大会を開催いたします。開催に当たっては、「観光九州アカデミア」の協力を得ることになっています。

大会プログラムの概略と研究発表、ワークショップテーマの申し込み手順等については次の通りです。詳細と参加申し込み書類は1月にお届けする予定です。一人でも多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

1 大会概要

(1) 開催日 2014年2月28日(金)・3月1日(土)・3月2日(日)

(2) 開催地 中村学園大学

〒814-0198 福岡市城南区別府5丁目7番1号

(3) プログラム概要

<1日目 2月28日(金) プレカンファレンス>

13:00~15:30 観光施設等の見学(対象検討中)

16:00~17:00 オープントップバスツアー(市役所発料金1,500円)

17:30~19:00 研究会(講師人選中)

19:30~ 懇親会(会場等検討中)

<2日目 3月1日(土)>

11:00~12:30 理事会(西4号館会議室)

12:30 受付開始(西4号館2階ロビー)

13:00~13:05 開会式(4201)

13:05~14:35 研究発表・教育実践報告

14:50~15:50 基調講演(講演者人選中)

16:00~18:00 シンポジウム(パネリスト等人選中)

18:10~ 懇親会(食育館)

<3日目 3月2日(日)>

9:15~ 受付開始(西4号館2階ロビー)

9:20~11:15 ワークショップ「観光ホスピタリティ教育におけるゼミ運営」(4201)

ワークショップ趣旨説明

学生セッション(20分×5 講評15分)

(報告者等調整中)

11:15~11:30 休憩(Tea time)

11:30~12:10 教員セッション(20分×2)

(報告者等調整中)

12:10~13:00 意見交換

13:00~13:10 閉会式

※プログラムの内容・時間等は変更することがあります。

2 研究・教育実践発表の募集について

研究・教育実践論文および教育実践報告の発表者を募集します。いずれも、会員または会員を含む連名による発表が条件です。希望される方は、学会ウェブサイトにある、募集要項(全国大会様式1)と執筆要項(全国大会様式2)をご覧の上、同封の応募用紙(全国大会様式3、学会ウェブサイトにてダウンロード可)に必要事項を記入し、電子メールまたは郵便にて、2014年1月14日(火)までに送付してください。

その後、執筆要領に従って大会論文集用の原稿を作成し、2月5日(木)までにe-mailまたは郵送にて提出していただきます。なお、発表査読は行いませんが、内容・様式に著しく問題がある場合は、発表を認めない場合があります。

研究発表論文集製本費用(5,000円)は大会当日にお支払いいただきます。また、発表者は、大会懇親会(2日目)に原則として無料でご参加いただけます。

※応募締め切り 2014年1月14日(火) 必着 ※発表論文完成稿締め切り 2014年2月5日(木) 必着

<大会事務局>

発表のご応募、お問い合わせはこちらまで。

中村学園大学流通科学部 日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会事務局 浅岡宛

〒814-0198 福岡市城南区別府5丁目7番1号

電話: 092-851-2531 (内線540)

e-mail: taikai@jsthe.org ※電子メールが確実です。

【2013 年度総会・講演会報告】

2013 年 6 月 8 日(土)、立教大学新座キャンパスにて、2013 年度総会・講演会、ワークショップおよび懇親会が開催され、会員・準会員・一般の合計 34 名のご参加がありました。

総会では、議案がすべて承認されました。また、総会後には、松本大学学長の住吉廣行氏による基調講演「高大連携から高大接続へ～キャリア教育をめぐる～」がありました。

続いて「キャリア教育における高大接続」と題してシンポジウムが行われました。コーディネーターは古本泰之氏(杏林大学)、パネリストは、清水誠氏(中村学園大学短期大学部)、吉田常行氏(住吉商業高等学校)、高橋修一郎氏(神田外語大学)でした。

なお、基調講演およびシンポジウムの詳細については、本学会機関誌第 8 号に掲載予定です。

【理事会報告】

<2013 年度 第 2 回定例理事会>

(1) 日時：2013 年 6 月 8 日(土) 11:00~12:00

(2) 場所：立教大学新座キャンパス 5 号館 6D 会議室

(3) 参加者：村上市長、益山副会長、小畑副会長、浅岡理事、海老澤理事、小槻理事、館野理事、丹治理事、中村理事、古本理事、吉田理事、宍戸監事、野口幹事、鈴木幹事 以上 14 名(委任状 3 通)

(4) 議題

1) 入退会審査(敬称略)

属性変更 [正会員] → [準会員] 中村真人(立教大学大学院)、[準会員] → [正会員] 田中祥司(神戸夙川学院大学)

退会 西川昌克(和歌山大学大学院)、進藤敦丸(東洋大学)

※審査後の会員数: 150 名(正会員 139 名、準会員 8 名、特別会員 1 団体、名誉会員 2 名)

2) 平成 25 年度総会・講演会について

①全体進行・予算

- 準備状況、全体進行、予算について説明がありました。

②総会議事(主に平成 25 年度事業計画について)

- 平成 25 (2013) 年度の全国集会について、6 月 8 日(土)と平成 26 (2014) 年 3 月 1 日(土)・2 日(日)の全国大会(中村学園大学)の開催を提案することになりました。
- 今後の機関誌の発行予定について検討しました。
- 事務局業務の一部外部委託について検討しました。
- 研究助成について、研究行動規範策定の上で実施することとし、本年度はそのための基金として一定額(20 万円程度)を予算化することを提案する

ことになりました。

- 研究行動規範について、2014 年 3 月の大会にて案を示して意見を聴取し、6 月の総会にて決定した上で研究助成制度等を実行する流れを目指すことになりました。
 - 理事会旅費について検討し、100km を超える移動が発生した場合、1 名あたり 1 年に 1 度 1 万円とし、予算総額を 10 万円程度として提案することになりました。
 - 規約改定について新旧対照表をもとに検討し、文言の統一や表現の整理、修正を提案することになりました。
- 3) 編集委員会報告
- 機関誌第 7 号の編集作業について報告されました。
 - 機関誌第 8 号について、2014 年 10 月の発行を目標に準備を進めることが報告されました。
 - 2012 年度の CiNii からの還元金について、金額および平成 25 (2013) 年度予算に計上されることが報告されました。
 - 献本についての報告がありました。
 - 編集委員会に関連する規約について、改正すべきポイントが示され、今後の理事会にて検討・改正することになりました。
- 4) 広報委員会報告
- 大学教育関係者の会合等で宣伝活動を行う予定が報告されました。
 - 博士課程後期課程の学生を対象にした会員増強活動を行うことを確認しました。
 - 企業の研修担当者を学会員の対象とするにはどのような取組が必要か議論の余地がある事が確認されました。
- 5) 研究会について
- 次回研究会を 11 月 9 日(土)に実施することが決まりました。
- 6) 第 12 回全国大会について
- 2014 年 3 月 1 日(土)・2 日(日)、中村学園大学(福岡県)を会場に在九州の会員および所属先が中心に実施することとなりました。
 - 実行委員会は、清水委員長(中村学園大学短期大学部)、浅岡委員(中村学園大学)、藤島委員(中村学園大学)、海老澤委員(長崎国際大学)、福島委員(九州国際大学)、安江委員(長崎外国語大学)、ほかで構成されることになりました。
- 7) その他
- 常務理事制度の運用を検討することになりました。

<2013 年度 第 3 回定例理事会>

(1) 日時：平成 25 年 11 月 9 日(土) 13:00~14:45

(2) 場所：中村学園大学 中央本館 大会議室

(3) 出席者：村上会長、小畑副会長、浅岡理事、小槻理事、館野理事、丹治理事、古本理事、宍戸監事、野口幹事、安江幹事 以上10名(委任状8通)

1) 入退会審査(敬称略)

- 入会 [正会員] 千葉里美(札幌国際大学)、渡邊公章(大阪国際大学)、金順河(崇義女子大学校)
- 属性変更 [正会員] → [準会員] 池田桂(同志社大学大学院)
- 退会 上地恵龍(琉球大学)、高木陽光、五艘みどり(神戸夙川学院大学)
- 審査後の会員数は150名(正会員138名、準会員9名、特別会員1団体、名誉会員2名)

2) 2013年度総会・講演会報告

- 総会・講演会の報告がなされ、了承されました。

3) 第13回全国大会

- 本議案のみ、清水誠実行委員長(本学会前会長)に同席いただきました。
- 観光九州アカデミアについて紹介があり、大会について運営上の協力を得ることになりました。(全国大会の内容については前掲の通りです)
- 大会の実行委員会は、実行委員長の清水誠(中村学園大学)、実行委員の浅岡柚美(中村学園大学)、海老沢昭郎(長崎国際大学)、福島規子(九州国際大学)、藤島淑恵(中村学園大学)、安江枝里子(長崎外国語大学)、丹治朋子(川村学園女子大学)、野口洋平(杏林大学)で構成することになりました(敬称略)。

4) 2014年度総会・講演会について

- 2014年6月21日(土)午後、会場は立教大学新座キャンパスまたは東海大学代々木校舎が予定されています。

5) 編集委員会報告

- 機関誌第7号の発行は12月頃の発行を予定しています。

6) 広報委員会報告

- 引き続き会員増強に取り組んでいくとの報告があった。

7) 総務委員会報告

- 事務局業務外注について、次期事務局と共同でその内容や範囲を検討していくことになりました。
- 次号のニューズレター(会報)の発行について報告と理事会関係者への協力依頼がありました。

8) 研究会について

- 2014年5月分について今後検討していくことになりました。

9) 研究行動規範の策定について

- 総務委員会を中心に検討中であることが報告されました。
- 利益相反行為に関する規定について同時に検討する必要があることが指摘されました。

10) その他

- 研究助成制度の構築に向けて準備が必要であることが確認されました。
- ※ 理事会終了後に全国大会において使用する予定の施設等を見学しました。
- ※ 次回の理事会は、2014年1月25日(土)午後1時~3時に立教大学池袋キャンパス13号館1階会議室にて実施します。

【評議員会報告】

日時：平成25年6月8日(土)12:00~13:00

場所：立教大学新座キャンパス 5号館6D会議室

出席者(敬称略、順不同)

評議員：岡本、清水、鈴木、豊川、山上

理事：村上、小畑、益山、浅岡、海老澤、小槻、館野、丹治、中村、古本、吉田

委任状2通

今後の取り組みについて以下の点について議論されました。

- 教養としての観光学の確立

近年、観光を専門に学ぶ学部やコース以外でも観光や観光学に興味をもつ学生・生徒が増加している。そこで、学会においてグループ研究として「教養としての観光」の教科書作りを検討してはどうかという意見が出された。一橋大学が高校と連携して『教養としての経済学』という高校使える教科書を作成しているが、そのような取り組みも参考にしたい。

また、観光学部・観光系コースにかかわらず、全学に共通したカリキュラムの中での観光教育の基盤性を確保し、固有の存在意義を明らかにしていきたい。

- 倫理に関する検討

学会として、モラルハザード(倫理観)を検討課題とすべきでないかという発案があった。研究者としての研究倫理、観光者としての倫理教育などいずれ検討の必要がある。

- 観光関連産業と連携し、「業界が求める人材像」の明確化

旅行会社やホテル等にきくと、求める人材像について、「人に親切な人」というような説明が少なくない。具体的な内容や、どういうスキルの組み合わせなのかがはっきりしていない。卒業生を産業のなかに定着させ、この業界で働くことの価値や成功事例を伝え、求める人材像を明確化したい。

【研究会報告】

2013年11月9日(土)15時より、中村学園大学中

中央館大会議室にて、「観光における新しい倫理観の形成に向けて ～ソーシャルメディア社会の成長により生まれる、倫理の複雑化と教育の対応を考える～」と題して今年度第2回の研究会が開催されました。参加者数は12名でした。

講師は、本学会長であり、研究活動のひとつとしてこのテーマに取り組んでいる村上和夫氏（立教大学観光学部部長）が担当し、事例を通じて参加者と問題意識を共有しながら、重要な点を整理していただきました。

今年の夏に大きな話題となった、ホテルやファストフード店、ファミリーレストラン、コンビニエンスストアなどにおけるアルバイト（若者、特に学生等）による悪ふざけ写真の SNS 投稿について、具体的事例を取り上げてその経緯と展開を分析していただきました。

また、有名テーマパークにおける若者等の悪ふざけ写真の SNS 投稿についても、同じく具体的事例を取り上げてその経緯と展開を分析していただきました。

大きく2つの事例を通じて、モラルハザードやリスク管理という視点から、現在の観光ホスピタリティ産業における検討や対応について、決して十分とはいえない状況が指摘されました。また、高等学校や大学などの教育機関、特に観光教育がどのようなことができるのかについても議論されました。

報告者と参加者によって活発な議論が行われ、予定時間を若干オーバーして終了しました。

【機関誌編集委員会】

日本観光ホスピタリティ教育学会
機関誌『観光ホスピタリティ教育』第8号
＜投稿原稿募集のお知らせ＞

日本観光ホスピタリティ教育学会の機関誌『観光ホスピタリティ教育』英語名：Annals of Tourism & Hospitality Education』は、2006年3月に第1号を発行しました。現在、2014年に発行予定の第8号の投稿原稿を募集しております。

いま、観光ホスピタリティ分野の教育活動を行っている大学院、大学、短期大学、専門学校、高等学校がますます増加しつつあります。会員の皆様がかかわったさまざまな教育実践の取り組みや学術的な研究成果を、ぜひ本学会の機関誌でご発表ください。

会員の皆様からの積極的な投稿を編集委員会一同、心よりお待ちしております。また、編集委員会から原稿執筆をお願いした際には、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

第8号の原稿締切日：2014年4月30日（水）消印有効

原稿投稿先・お問合せ先：
日本観光ホスピタリティ教育学会 編集委員会事務局
益山代利子
〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1
松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科付
E-mail : yoriko.masuyama@matsu.ac.jp

※ 機関誌の紹介ページ
<http://www.jsthe.org/journal/index.html>

【観光教育の動向】

①「釧路湿原美術館オープニング式典」
ボランティア活動&「道東観光活性化」研修
(桜美林大学・鈴木勝ゼミ)

【概要】

鈴木ゼミ3・4年の総勢17名+1教員（含・中国人留学生2人、韓国人留学生1人）は、2013年6月14日（金）～16日（日）の3日間、北海道釧路市阿寒町を訪れ、「佐々木榮松記念 釧路湿原美術館」※のオープニング・セレモニーにボランティア・スタッフとして参加し、地域観光活性化の起爆剤としての美術館のオープンにささやかであるが貢献できた。同時に、当美術館に加えて、阿寒湖、阿寒国際ツルセンターグルス、あかんランド丹頂の里、温泉宿泊施設・赤いベレーなどを研修し、道東阿寒地域の観光振興に向けての討論と提言を行った。首都圏に住み、また、観光系の学生にとって、貴重な体験であり多くのことを学ぶことができた研修といえよう。なお、この多くの学生が実習できた背景には、釧路市阿寒町行政センターや釧路湿原美術館の絶大な支援があったからである。

【釧路湿原美術館オープニング式典参加の経緯】

ゼミ担当教員が、当美術館設立のNPO法人の理事であり、また、“湿原の画家”と長年、懇意にしてきたこともあるが、このオープニングを聞きつけたゼミ学生が参加への熱意を示したことに端を発している。佐々木榮松画伯は、北海道・道東の風土をテーマに心象作品（油絵、水彩、デッサン、魚拓）を描き続け、昨年2012年に98歳で生涯を全うした。遺贈作品約600点の保存のために、全国のファンが集まり、美術館建設に至った。式典には、当初4～5人ほどのゼミ学生を予定したが、最終的には17名が参加するに至った。

【釧路湿原美術館式典・当日】

オープニングの6月15日（土）は、早朝から式典の準備が開始された。受付係、VIP係、美術館ホール係、テント設営/駐車場係などが決められ、学生が配備された。当日は、生憎の雨模様であり、屋外の式典が美術館ホールに変更され、そのため、ビッグイベントのブラスバンドが中止された。しかし、学生にとって美術館オープン

は、稀なイベントであり貴重な体験をすることになった。特に、VIP 担当の学生にとっては、国会議員、市長、JTB グループ会長など、緊張する場面もあった。また、観光を学ぶ学生にとっては、JTB 会長と合同写真を撮ったり、一人ひとり名刺を受けとったりして話す機会があったことは貴重なことと思える。

〔道東観光活性化研修〕

北海道ツアーの料金は他デスティネーションと比較して、率直のところ、高額である。特に、道東となると航空運賃だけでも、韓国ツアー並みである。釧路市および釧路湿原美術館と交渉の結果、破格の金額となった。特に、釧路市阿寒町行政センターから、2泊3日の宿泊代、食事代、3日間の研修のためのバス代提示には、感謝に堪えない。その結果、学生の負担は、往復の航空運賃だけとなり、多くが参加することになったわけである。ただ、その見返りは、釧路阿寒地域の観光開発・振興に関して、若者の提言を行うことだった。(ところで、この道東地域は、シニア・マーケットが主流であり、近年、FIT である個人化傾向にありながら「団体」が中心であった。また、札幌などの道央と比較して、訪日外国人観光、いわゆるインバウンドが伸び悩んでいるという傾向にある)。

〔美術館オープン後における桜美林大学・鈴木ゼミとの関わり〕

大学ゼミ活動の課題として、常に悩まされるのは「継続した関係の保持」であるが、式典への参加後、次のような連携を保っている。①8月中旬～9月上旬。ゼミ学生が一人、当美術館のある「釧路市阿寒町行政センター」に2週間余の「行政における観光振興」のインターンシップを経験。②8月下旬～9月上旬の5日間。桜美林大学全学生対象の「観光産業実習」を実施し、2～4年生27名が参加。道東阿寒地域の観光産業の実習をした。特に、当該地域の着地型観光に対して、学生から多くの提言を行った。③11月上旬に行われた大学祭で、「釧路市阿寒地域」のブースを設営し、産地直送のじゃがバターやかぼちゃを販売するとともに、阿寒地域や釧路湿原美術館を首都圏でアピールしたところである。ブース開設時には、阿寒地方の行政センター担当者、宿泊施設・赤いベレー支配人、釧路湿原美術館理事長など多くが来校してくれた。④釧路湿原美術館のパンフレットやホームページにおける多言語版の援助。英文パンフレットに関しては、桜美林大学の教員が支援を行い、発行済み。中国語、ハングルに関しては、留学生などの援助で作成中である。

来年度の研修の受け入れやインターンシップに関して、丁度、話し合いを行ったばかりである。今後、継続して桜美林大学/鈴木ゼミとの関わりを持ち、さらに連携を深めていきたいと思っている。

※ <http://www12.plala.or.jp/kushiro/>



写真1 釧路湿原美術館全景



写真2 落日のフローラ (花神)



写真3 NPO 理事長、美術館館長・副館長と鈴木ゼミ参加者
(報告者：桜美林大学 鈴木勝)

②玉川大学観光学部の開設について

2013年度より、玉川大学(東京都町田市、学長：小原芳明)では8番目の学部として「観光学部」を開設いたしました。2007年度に設置した経営学部観光経営学科を改組したもので、入学定員は90名となっております。

育成する人材像は、グローバル時代における観光振興に寄与できる人材です。そのために、英語力や観光の専門性を高めることはもちろん、情報を駆使する力をしっかり身につけた人材の育成に取り組みます。

そこで、カリキュラムの最大の特徴となるのは、2年次秋学期から3年次春学期にかけての1年間に観光学部の学生全員が留学をすることです。留学先はオーストラ

リアのメルボルンで、同地にある Deakin University、Swinburne University of Technology、Victoria University の3大学のいずれかで1年間学びます。

留学前の1年次と2年次の春学期までの1年半の最優先課題は、留学要件の1つであるTOEICのスコアを500に到達することになります。月曜から金曜までの毎日、キャンパス内で学生が英語力の強化に取り組むことのできる仕組みを設けております。

一方、観光の専門的な学習については、留学から帰国後の3年次秋学期以降に重点的に取り組むこととなります。「観光ビジネス」「観光による地域活性化」「観光による国際交流」と3つの履修モデルを用意しております。留学で身につけた英語力と異文化体験、幅広い視野を生かしつつ、学生の興味関心、卒業後に描くキャリアのイメージに合わせた学習をすることができます。なお、玉川大学では、2013年度の入学者より1セメスターの最大履修単位数は原則として16単位となっています。そのため、学生は4年次秋学期まで専門の学習にしっかりと取り組むことが求められます。

最近の動きですが、2013年11月2日(土)に、第1期生とご父母を対象とした留学説明会を開催しました。当日は、メルボルンの概要や生活状況、留学先の3大学について、担当教員が説明を行いました。学生の留学に向けたモチベーションが高まりつつあります。

玉川大学観光学部の教育は、いま注目されているグローバル人材の育成に向けての挑戦的な取り組みです。卒業後に多様な観光関連の業界で活躍できる人材を育成するべく、玉川大学では積極的に取り組んで参ります。

(報告者：玉川大学 中村哲)

【新刊紹介】

シリーズ よくわかる観光学 1
岡本伸之編著

『観光経営学』

A5判 208頁 2013年10月15日
ISBN978-4-254-16647-7
定価 2,940円(税込)

いわゆる観光産業の経営に加え、地域振興、観光施設、投資計画、人的資源管理、ポストモダンなどを扱う章があり、「観光経営学」という分野がカバーする範囲の広がりを感じることができる構成・内容になっている。



【編集人より】

会報では、会員の皆様から提供された観光ホスピタリティ教育の情報及び書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍(定期刊行物を除く)を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。

ご協力をお願い申し上げます。
編集・発行人 野口洋平(杏林大学)
E-Mail: noguchi@kyorin-u.net
FAX: 042-691-8617(大学共用)

【第13回全国大会 アクセス情報】

中村学園大学
〒814-0198 福岡県福岡市城南区別府5-7-1

- 西鉄天神大牟田線福岡駅(天神バスセンター)からバス20分
- JR博多駅からバス30分、中村大学前下車すぐ
- 地下鉄七隈線別府駅下車、徒歩3分

■地下鉄線■

| | |
|--------------------------|---|
| 福岡空港 → 博多駅又は天神 → 別府のアクセス | |
| 福岡空港 → 博多駅(空港線) | 所要時間 約5分 |
| 福岡空港 → 天神(空港線) | 所要時間 約11分 |
| 天神南 → 別府(七隈線) | 所要時間 約9分 ※別府駅1番出口から徒歩1分・ 2番出口から徒歩3分 |

■西鉄バス■

| 経路 | のりば | | 主な先行 | 経由 |
|---------------|-----------|--------|---|--------------------------|
| 博多駅→ 中村大学前 | 博多駅 | A乗り場 | 陽光台・早良営業所/ 早良高校/ 四箇田団地/ 野方 | 城南・六本松/ 次郎丸/ 福歯大入口 |
| | 博多バスターミナル | センター1F | | |
| 天神→中村大学前 | 天神北 | 9番乗り場 | 早良営業所/ さわら台団地/ 四箇田団地/ 三陽高校前/ 野方 | 城南・六本松/ 次郎丸/ 福歯大入口 |
| | 天神コア前 | 7A乗り場 | | |
| | 警固神社三越前 | 警固神社向側 | | |

(詳細情報)

中村学園大学ウェブサイト

<http://www.nakamura-u.ac.jp/>

<http://www.nakamura-u.ac.jp/koutu.html> (アクセス)